

かかしのはなし

高山 邦明(千葉市緑区)

今年も8月に下大和田と小山でかかしを作って稲穂が出た田んぼに立てました。収穫までの間、田んぼを守ってもらうことを期待しての恒例のかかしづくりです。黄金色に稲が実った田んぼにかかしが立っている様子は日本人の原風景と思われますが、かかしにはどのような歴史があり、どのような思いを込めて作られてきたのかというのは意外と知られていないようです。そこでインターネットや図書館でかかしのことを調べてみました。

かかしというと田んぼに人がいるように見せかけることでお米を食べに来る鳥が近づかないようにするために、つまり、鳥よけとして立てられるのが一般的です。お米を食べる鳥としてまず、スズメが思い浮かぶことでしょう。実際、下大和田では何年か前にスズメの大群によって緑米の田んぼを丸坊主にされてしまったことがあります。一方、小山では昨年、オダがけした稲や稲刈りで最後に残ったコシヒカリをカルガモにほとんど食べられてしまいました。稲に被害を与える鳥はスズメ、カモ、カラスが代表的のようです(藤岡・中村, 2000)。でも、かかしを立てると田んぼに鳥が来なくなるかという効果は限定的のようです。

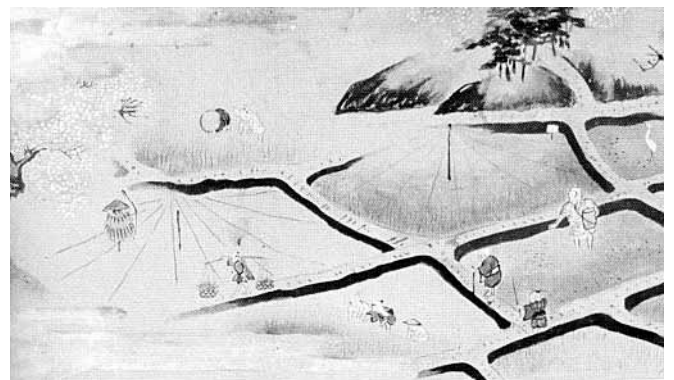
鳥を追い払う方法で一番効果的なのはカーバイドやプロパンガスなどを使って大きな音を出すことです。今は少なくなりましたが、黄金色に稲穂が実った田んぼでドーンという爆音をするのを聞いたことがあると思います。音で鳥を驚かす方法として、昔は田んぼの上に張ったロープに木片をつるし、それが風や人がロープを揺らすことでぶつかってカラカラと音を立てる“鳴子(なるこ)”が使われていました。子どもたちが朝から夕方まで鳴子を鳴らす仕事をやらされていたという話を聞いたことがあります。

鳥害を防ぐには他にネットで田んぼを覆ったり、キラキラするテープを張ったりといった方法もあり、いずれもかかしよりも効果があるようです。一方、視覚ではなく臭いで追い払う方法もあり、その昔は髪の毛や魚の頭などを焼き、串にさして田畑に立てて、その臭いで鳥やけものを追い払っていたそうです。これを「かがし(嗅がし)」と呼んでいて、転じて「かかし」となったという説があります。かかしに対して全国で様々な呼び名があり、関東や東北地方では「かかし」や「かがし」、長野や岐阜では「そめ」、西日本では「しめ」、「おどし」、「おどろかし」、北陸では「とりかがし」、その他にも「とりおどし」、「とぼし」、「やまびと」、「そうず」、「かがせ」などと呼ばれているそうです。

鳥よけのためのかかしは日本だけでなく世界各地で作られています。アメリカ文学のオズの魔法使いに登場するかかしは皆さんよくご存じだと思います。英語ではスケアクロウ(scarecrow)と呼ばれ、「カラスおどし」という意味です。でも、日本ではかかしを鳥よけという目的だけでなく、田んぼの神様として立てられたようです。

春、山から降りてきた神がかかしに乗り移って田の神になり、秋の収穫まで田んぼで稲の生育を見守り、収穫が終わると山に帰り山の神になると日本各地で言われているようです。秋に田んぼから引き揚げられたかかしを家に持ち帰り、新しい蓑(みの)や笠を着せて庭に立て、感謝をささげるお祭りも行われているようです。千葉でも旧暦10月10日に十日夜(とおかんや)と呼ばれるお祭りが行われ、田んぼの神を山に送ったそうです。かかしづくりは春先に行われ、苗代づくりから田植え、稲刈りまで田の神が乗り移った依り代(よりしろ)であるかかしに米づくりの無事を祈願していたのです。田の神として信仰の対象であるかかし。とても日本的で、単なる鳥よけという意味ではない、かかしの本来の姿のように感じました。

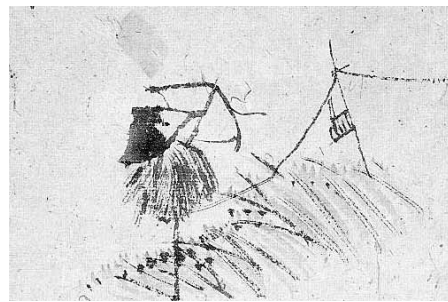
では、昔のかかしはどのような姿だったのでしょうか?インターネットで画像検索をしても現代のかかしの写真が出てくるだけなので、室町~明治時代の農村風景を描いた“四季耕作図”を調べてみました。四季耕作図は春夏秋冬の主に米作りの様子を描いたもので、日本各地に残されています。千葉の耕作図について“豊年満作!農耕図のナゾを解け!! - 房総の四季耕作図と農具絵図 -”という資料がありましたので、これを端から眺めたところ、江戸時代に描かれたと考えられている耕作図にかかしの姿がありました。かかしが立っているのは春の苗代で、蓑を着て笠をかぶっており、弓矢を手にしているように見えます。田んぼにはロープを張った鳴子もあります。他にも田んぼの風景が多数描かれていますが、かかしの絵はこれだけです。



千葉県の江戸時代の四季耕作図に描かれたかかし

愛知県の四季耕作図の資料もあったのでこちらも調べてみたところ、江戸時代の耕作図に千葉のものと同様に似たかかしが描かれていました。四季耕作図の絵師は必ずしも当時の農村の風景を見て描いたのではなく、お

手本となる本を写していることが多いことに気をつけないといけないようですので、二つのかかしがよく似ているのはそのせいかもしれません。いくつかの四季耕作図を見るに、かかしの絵はほとんどなく、田んぼにかかしというのが普通の風景ではなかったことが想像されます。一方で鳴子の絵は多数あり、鳥よけのために鳴子はよく使われていたようです。



愛知県の四季耕作図に描かれたかかし

かかしについて調べてみましたが、意外と資料がなく、現代の私たちが思うほど昔は一般的な存在ではなかったように感じました。しかし、台風やひでり、病虫害など自然に左右される米づくりが毎年無事に終わることを祈って作られた「田の神」としてのかかしへの昔の農民の思いは心に留めておきたいと思います。

〈参考資料〉

「鳥害の防ぎ方」藤岡正博・中村和雄、2000年

「豊年満作!農耕図のナゾを解け!! - 房総の四季耕作図と農具絵図 -」千葉県立房総のむら、2010年

「描かれた農 四季耕作図」安城市歴史博物館、2011年

下大和田のかかしたち 2016



学校田んぼの子どもからのメッセージ

小山での学校田んぼの作業のあと、子どもたちは作業の記録として体験したこと、考えたことを文章や絵に書いており、それを谷津田だよりに掲載させていただいています。今年の田植えの後、あすみが丘小学校の児童の一人が授業の記録とは別に思ったことを書きつづってくれました。ご本人の了承を得て掲載します。

◎「体験」ではなく「仕事」

「あすみっ子田んぼは『谷津田』という所にあります。」と先生がおっしゃった。谷津田の「谷津」というのは、台地にはいりこんだ小河川が作る樹枝状の細い谷のことだというのが、そんな所があすみが丘の近くにあるのだろうか、谷のような所で米づくりなどできるのだろうか、とても興味がわいてきた。

学校からあすみっ子田んぼまで、歩いて40分。うきうきした気持ちで出発。少し歩くと見慣れない大きな林が見えてきた。こんな所に田んぼがあるのかと知っている長い階段が見えてきた。百段ほどの階段を下りると、緑がうつしだされた湖のようなものが見え、あすみっ子田んぼはそろそろかなと思いきや、そこから15分ほど歩いてやっと到着した。

あすみっ子田んぼまで歩いて来ただけで、まだ何もしていないのに「なぜかものすごい達成感でいっぱいだった。休むひまもないまま、谷津田プレーランドプロジェクトの方々のお話を聞き、そしていよいよ生まれて初めての田植え。とても緊張した。あぜ道を通るだけですごく土がぬかるんでいる。田んぼの深い所では、もものつけ根までしずんでしまうというが、私が田植えをする場所はそう深くもなさそうだ。「大丈夫。田植えなんて簡単そうだな」と友達と話ながら田んぼの中へ足を入れた。

簡単と思ったのもつかの間、奥の方へ進んでいくと、だんだん深くなってきた。と同時に足が重くなってきた。田植えもしていないのにもうくたくた。こんなことで大丈夫なのかと不安になってきた。実際に田植えをしてみると、これがまた難しく、何回も何回も転びそうになった。泥に足をとられてしまうのだ。だれかの支えがないと移動さえできない所もあった。

今では、米づくりは機械を活用している。でも、この谷津田には機械や車は入れない。それほどせまく、地形も急になっている。機械化が進む前は、みんなこのように手作業で米づくりをしていたのかと思うと気が遠くなった。小山町の方々の中には機械を使わず、すべて手作業で米づくりをしている方もいらっしゃるそうだ。私たちのように田おこしやしろかきが終わった田んぼに8本の苗を渡されて田植えだけを体験して終わる作業ではなく、仕事として、「がんばって美味しいお米を作ろう」「美味しいお米を食べてもらいたい」という願いをもって米づくりをしている。

「あすみっ子田んぼでの活動は『体験』ではなく、『仕事』である」と谷津田プレーランドプロジェクトの方がおっしゃった意味がやっとわかった。これから草取りやかかしづくり、稲刈りなどの活動を行なうが1つ1つの活動を体験で終わらせるのではなく、米づくりの中の大切な仕事として真剣に取り組みたい。

(F.O)



里山たんけんレポート

第199回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2016年8月7日(日) 晴れ

今回は初めての試みで小川の生きもの調査と同時にイシガメ・クサガメの生息調査、ウシガエル(特定外来生物)の捕獲駆除を兼ねて行いました。田んぼ沿いの小川に入ってジャブジャブと、たま網に追い込みながら探りました。魚は8種、スジエビ、アメリカザリガニなどが確認できましたがイシガメ・クサガメ、ウシガエルは確認できませんでした。調査範囲が田んぼ沿いの立ち入りやすいところで、ウシガエルが潜んでいそうな草が茂っている所は調べられませんでした。事前に両岸の草を刈っておくなどの準備をしておく必要を感じました。フナは10cmを超えるような大きさのものもいて驚かされました。アメリカザリガニ(要注意外来生物)は120匹も捕らえました。お昼にゆでて参加者のお腹に納めましたが美味でした。



暑い夏の日、こどもも大人も川に入って魚獲りに興じ楽しいひとときを過ごしました。

(参加 大人19名、高校生6名、小学生6名、幼児4名; 報告: 網代春男 写真: 田中正彦)

第194回 下大和田 YPP「かかしづくり」

2016年8月13日(土) 晴れ

最初に今年のコシヒカリの生育状況を調べるモミ数カウントをしました。田んぼで稲株ごとの穂の数と一つの穂に付いているモミの数をかぞえます。一人で5株ずつ、小さい子どもたちもがんばって数えてくれたのでしっかりとしたデータが取れました。



かかしづくりは涼しい林の中でしました。まずは竹林へ行き、子どもたちが背の高い竹をノギリで切り倒してくれました。かかしは家族を中心としたグループに分かれて作りました。家から持ってきた古着を組み合わせ、中に稲わらを入れて体を作り、最後に顔を描いてそれぞれ個性的なかかしが6体出来上がり。かかしと一緒に記念撮影をしてから、田んぼに立てました。収穫までしっかりと田んぼを見守ってくれることでしょう。

(参加 大人16名、小学生8名、幼児4名、報告 高山邦明 写真: 田中正彦)

小山のかかし

小山の学校田んぼの作業日に参加した親子がかかしを作ってくれました。

素敵なかかしが田んぼを見守ってくれています。



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 8月 6日 田んぼ脇の水路でモズガニを見つける。脱皮したところだった(今川)。
8月 14日 アキノキリンソウやキツネノマゴが開花。ツクツクボウシの声が増えてくる(高山)。
8月 20日 コナギが咲きはじめる(高山)。
8月 26日 タカサブロウやクスが咲く。色づいたマユタテアカネを見かける(高山)。

下大和田

- 8月 4日 アカボシゴマダラ(チョウ、要注意外来生物)が始めて下大和田に出現(網代)。
モズの高鳴き力聞こえた。
8月 12日 ヤマホトトギス開花(網代)。
8月 13日 トチカガミが花を付ける。黒米が出穂。ツクツクボウシの声を聞く(高山)。
8月 30日 セミ時雨はツクツクボウシが優勢になってきた(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第195・196回下大和田 YPP「コシヒカリの稲刈り・脱穀」(第8・9回米づくり講座)

いよいよ収穫の季節のスタート。最初にコシヒカリを刈ります。初秋の谷津の自然を楽しみながら気持ちのよい汗を流しましょう。引き続き脱穀は稲の乾燥具合や天候で日程が変更になるかもしれませんので、ホームページやちば環境情報センター事務局で事前に確認をお願いします。

日時: 稲刈り 2016年9月22日(木・祝)9時45分~14時 *荒天時は9月24日(土)に順延
脱穀 2016年10月8日(土)9時45分~14時

*脱穀は稲の乾燥具合や天気によって日程が変わる可能性がありますので、当日や前日の天気が悪い場合はホームページで確認をお願いします(前日にはお知らせします)。

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行き)のちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族 100円、一般 300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第201回 下大和田 10月の谷津田観察会とごみ拾い

秋の花の盛期、トンボの調査も継続しながら谷津を巡ります。

日時: 2016年10月2日(日)9時45分~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2016年9月11日(日)、9月16日(金)いずれも9時45分~15時

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

▼第132回 小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

収穫の第一歩としてコシヒカリの稲刈りをします。

日時: 2016年9月19日(月・祝) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 千葉県を直撃した台風9号は各地に被害を及ぼしました。YPPの田んぼではオダ小屋が倒壊したり、イネが倒れたり、畔が崩れたりといった影響を受け、自然の脅威を改めて感じました。下大和田では襲来の10日ほど前に作ったかかしの中には倒れたものもありましたが、あの暴風雨の中、田んぼに立っていてくれたことは感謝に堪えません。台風シーズンはこれから本番。かかしへの祈りを続けたいと思います。(高山 邦明)